

学 校 教 育 目 標

人間尊重の精神を基調とし、人としての基礎・基本を身に付け、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる心身ともにたくましい児童の育成を目指す

- 思いやりのある子ども
- 進んでやりぬく子ども

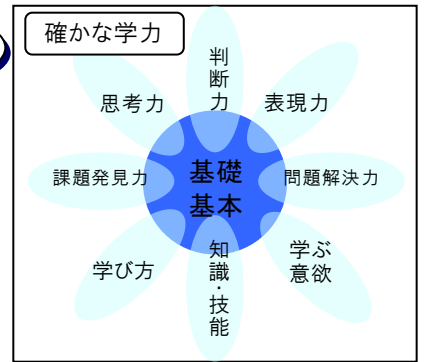
- じょうぶな子ども
- ◎よく考える子ども

■■■ 学力向上にかかわる学校経営計画 ■■■

- 児童の実態から指導方法の工夫、評価の改善に努め、学習意欲を向上させ、各教科の基礎的、基本的な内容の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力の育成を図る。
- 全国及び東京都の学力調査の結果を活用するとともに、普段の授業における児童の習熟状況を把握し、一人一人の児童にきめ細やかな指導の充実を図る。
- 各教科の評価規準を活用し、児童一人一人の学習状況を確実に評価する。
- 二学期制の特性を活かして7月および12月を学力向上月間とし、自作の学力定着調査を行い、基礎的・基本的内容の定着を図る。

本校における
確かな学力

自ら課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力



【 各教科の指導の重点 】

- ・ 体験的な学習や基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習を通して、学習意欲の向上、学習内容の確実な定着、思考力、判断力、表現力の育成を図る。
- ・ 算数科においては、少人数加配教員、学力向上支援講師を活用し、習熟度別学習集団による指導、ティーム・ティーチングによる指導を行い、児童の実態や興味関心に基づく決め細やかな指導を行う。
- ・ 小中連携教育に基づく全教科にわたるカリキュラムの開発及び指導方法の共同研究を行い、9年間を見通した学力の向上を図る。
- ・ 国語科における記録、要約、説明、論述等の言語活動及び各教科等の特質に応じた言語活動の指導の工夫による思考力、判断力、表現力の育成を図る。

道徳の指導の重点	外国語活動の指導の重点	総合的な学習の時間の指導の重点	特別活動の指導の重点	生活指導の重点	進路指導の重点
<p>学校教育全体を通じて、それぞれの教育活動の特質に応じて行う道徳教育と、それらを補充、深化、統合する道徳の時間の充実を図り、道徳性を育成する。</p> <p>各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接に関連を図りながら、計画的、発展的な指導を行う。</p>	<p>外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、聞く力などを育てる指導の充実を図る。</p> <p>日本語とは異なる外国語の音に触れ、外国語を注意深く聞いて相手の思いを理解しようとして、他者に対して自分の思いを伝えることの難しさや大切さを実感したりしながら、積極的に自分の思いを伝えようとする態度を育成するための指導の充実を図る。</p>	<p>体験的な学習に取り組み、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動となるよう充実を図る。</p> <p>体験活動をしたり、調べたりしながら、必要かつ幅広い情報を整理・分析したり判断したりしながら、既習の知識や経験と結び付け、自分の考えや意見、発見したことなどをまとめ、表現する指導の充実を図る。</p>	<p>児童の自主的、自立的な活動を重視し、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育て、生き方についての考えを深め、自己を生きかす能力を養う指導の充実を図る。</p> <p>学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする態度を育てる。</p>	<p>児童一人一人の人格を尊重しながら、規範意識をはぐくむなど社会的資質や行動力を高める指導の充実を図る。</p> <p>児童の実態を把握し、学校全体で組織的な指導を行うとともに、学校教育相談機能を充実させ個に応じた指導を推進する。</p>	<p>各教科等の指導を通じて、学習課題や活動を選択したり、自らの将来について考えたりする機会の充実を図る。</p> <p>学級活動等において、自己の悩みや葛藤、将来の夢などの課題を積極的に取り上げ、考えを深められるようにしたりして、指導の充実を図るとともに、家庭や地域と連携した指導を行う。</p>

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・方法の工夫	教育課程上の工夫	校内における研究や研修	評価の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
別紙参照	<p>○二学期制の活用</p> <p>・長い学期のスパンの中で、計画的、継続的な学習指導を行う。</p> <p>○朝学習の充実</p> <p>・漢字や計算、読書など基礎的・基本的な学習及び発展的な学習の充実を図る。</p> <p>○長期休業中補充教室</p> <p>・学年ごとに補充教室を行い、基礎的・基本的な内容の定着と、発展的な学習の充実を図る。</p>	<p>○小中連携における研究</p> <p>・全教科における学習の円滑な接続のためのカリキュラムと指導方法の開発に努める。</p> <p>○考え、表現する指導方法の研究</p> <p>・全教科における問題解決的な学習指導、及び思考力、判断力、表現力を高めるための指導方法の研究に努める。</p> <p>○コミュニケーションスキル</p> <p>・円滑なコミュニケーションを図るための指導方法の研修に努める。</p>	<p>○基礎的・基本的学力の定着</p> <p>・評価規準を活用し、指導と評価が一体となった教科指導計画に基づき定着の状況を確認し、一人一人にきめ細やかな指導を行い、学力の向上を図る。</p> <p>○授業における学習状況の把握</p> <p>・普段の授業における学習状況を小テスト、机間巡視、ノート指導、発表等を通してきめ細やかに把握し、個に応じた指導の充実を図る。</p>	<p>○学校行事及び授業公開</p> <p>・学校公開、学校行事、道徳授業地区公開講座等、学校を開くとともに、アンケートなどから期待や要望を受け止め、改善に生かす。</p> <p>○学校評価の活用</p> <p>・学校関係者評価の結果を分析するとともに学校評価委員会に報告し、学校の自己評価と合わせて教育課程の改善及び授業改善に生かす。</p>

指導内容・方法の工夫

学力調査結果の概要

6年

- ・国語では、全体的に全国の平均正答率より若干上回り、都の平均正答率より若干下回っている。目立って下回っていたのは、話す・聞くの領域であった。また、主語をとらえる、聞き方の説明として選択するコラムの問題では、筆者が引用している言葉を書き抜くなどの設問において正答率が極端に低かった。
- ・算数では全体的に東京都・全国の平均正答率より上回っている。算数 A(主として知識)では、正答率も高かった。算数 B(主として活用)でも、東京都・全国の平均正答率を上回っているが、算数 A と比べると正答率は大きく下がる。概ね平均を上回っているが、末尾の揃っていない小数の減法、グラフの読み取り等の設問において正答率が東京都の平均を下回っている。また、単位量あたりの計算に関する問題の正答率も低いことから、考え方が身に付いていないことが分かった。

5年

- ・国語では、教科の内容では、全体的に都の平均を下回っており、課題がみられる。特に、「読む」と「書く」は都の平均に対して大きく下回っており、課題である。また、読み解力に関する内容では、「読み取る力」が都の正答率よりも上回っており、おおむね満足できる状況である。「取り出す力」・「読み取る力」が都の正答率を上回っているが、55%と若干低く課題である。
- ・算数では、教科の内容では、「技能」に関しては、おおむね満足できる状況である。しかし、そのほかの「思考・判断・表現」と「知識・理解」では、都の正答率よりも大きく下回っており、課題である。また、「関心・意欲・態度」に関しては、都の正答率より大きく下回っており、これまで学習した内容をどのように生かせばよいのかが理解できていない児童が多く、大きな課題である。

国語科指導の工夫

「言語活動」の指導の充実

国語科においては、「適切に表現する能力」と「正確に理解する能力」を育成することが、最も基本的な目標とされている。また、知識・技能を修得するのも、これらを活用し課題を解決するために思考し、判断し、表現するのもすべて言語によって行われるものであり、これらの学習活動の基盤となるのは、言語に関する能力であることから、言語に関する能力を育成する中核的な教科である国語科を中心として「言語活動」の充実を図る。

■■■授業改善の具体策■■■

国語科の学習における「話すこと・聞くこと」「書くこと」及び「読むこと」の各領域において、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる言語の能力を身に付けさせるため、日常生活に必要とされる記録、説明、報告、紹介、感想、討論など、学校や児童の実態に応じて言語活動の充実を図る。

≪各領域における言語活動の具体例≫

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
第1・2学年	知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりする	紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりする	事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読む
第3・4学年	図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりする	疑問に思ったことを調べて報告する文書を書いたり、新聞に表す	記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合う
第5・6学年	調べたことやまとめたことについて討論などをする	意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりする	編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読む

「読むこと」の指導の充実

文章の詳細な読み取りに陥ったり、叙述に基づかない「思いつき発言」に終始してしまったりは、意図的・計画的な指導は展開されず、子どもたちに「読む能力」をはぐくむことは難しい。「読む能力」をはぐくむことは、現在、国を挙げて取り組んでいる「読解力」の育成にもつながるものであり、指導の充実を図る。

■■■授業改善の具体策■■■

「読むこと」の学習で実現すべき目標は、学習指導要領に下のように示され、重点的に取り扱う必要がある。「読解力」をはぐくむためには、教材文が「わからない」から「わかる」へ、さらに、「わかる」から「よりわかる」ように子どもを変容させていくことが必要である。そのために、「文章を読み解く視点」を教材文に合わせて意図的・計画的に示し、深い読解ができる授業を行う。

第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
<p>事柄の順序 場面の様子</p> <p>順序に従って内容をおさえたり、場面の様子に気付きながら読みとったりする。</p>	<p>内容の中心 段落相互の関係</p> <p>文章の部分としての段落、段落と段落との関係、文章全体の関係、大事なところはどこかなど、筆者の主張や述べ方に目を向けさせる。 説明的文章…中心語句、中心文、中心段落 文学的文章…物語の山場、感動的な場面</p>	<p>内容の把握 要旨の把握</p> <p>作者や筆者の述べたい内容や述べ方をとらえる。それぞれの文章のもつ表現や文体に表れた意図や工夫、論理等をおさえながら自分の読み取り方をし、意見をもつ。</p>

社会科指導の工夫

資料活用の段階的指導

社会科においては、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視されており、系統的、段階的な資料活用能力の育成を図る。

■■■授業改善の具体策■■■

各学年の段階に応じて、観察、調査したり、地図や地球儀、統計、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用したり、社会的事象の意味や働きなどについて考え、表現したりする力の育成するための指導の充実を図る。

第3・4学年	第5学年	第6学年
<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を読み取る 資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる 必要な資料を収集する 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を読み取る 資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる 複数の資料を関連付けて読み取る 必要な資料を収集したり選択したりする 資料を整理したり再構成したりする 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を的確に読み取る 資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる 複数の資料を関連付けて読み取る 資料の特徴に応じて読み取る 必要な資料を収集・選択したり吟味したりする 資料を整理したり再構成したりする

問題解決の過程を意識した指導

「問題」「予想」「調査」「結果」「結論」という問題解決的な過程を意図的に授業に位置付ける。ワークシートやノートを使用する際も「問題」「予想」「調査」「結果」「結論」などの記述を積極的に取り入れさせるようにし、問題解決の過程を児童に意識付ける指導を行う。

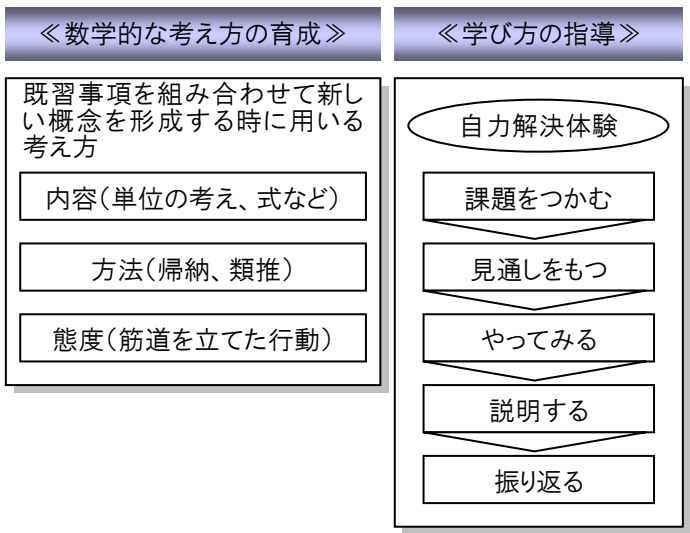
算数科指導の工夫

問題発見・解決能力を身に付けさせる指導

算数科においては、問題を解決したり、判断したり、推論したりする過程において、見通しをもち筋道を立てて考えたり表現したりする力を高めていくことを重要なねらいとしている。既習の学習内容を基に考えさせたり、既有経験を生かして問題解決させたり、体験的に理解することを通して自ら課題を見付け、主体的に問題を解決する能力を身に付けさせる指導を行う。

■■■授業改善の具体策■■■

「課題をつかむ」「見通しをもつ」「やってみる」「説明する」「振り返る」などの問題を解決する過程を意識的に授業に位置付け、見通しをもち筋道を立てて考える力を育成する。また、児童が具体物や半具体物を用いたり、言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いたりして、自分の考えたことを表現したり、友達に説明したりする作業的・操作的・体験的な学習活動を取り入れ、テープ図や線分図、数直線などを操作的な「問題解決のアイテム」として使いこなせるよう、継続的、発展的に指導を行う。



理科指導の工夫

「科学的な思考力・表現力」を育てる指導

理科において、各学年で重点を置いて育成すべき科学的な思考力は右のよう
に示されており、理解においても問題解決的な学習が重視されている。児童
が自然の事物・現象に関心を持ち、そこに問題を見出し、解決する方法を考え、
観察・実験などを行うことにより結果を得て、解決過程や結果について相互に話し合う中から、結論として科学的な見方や考え方をもち
つことができる指導を行う。

■■■授業改善の具体策■■■

学習ノートやワークシートを使用する際にも、「問題」「予想」「実験」「結果」「結論」などの記述を積極的に取り入れるよう働きかけ、問
題解決の過程を児童にも意識付ける指導を行う。また、何が同じで何が違う？(比較)、変化を引き起こす要因は？(関係付け)、どの
条件を変えて比べる？(条件制御)、いくつかの結果から分かることは？(多面的追求)など、学年に応じて児童に働きかける視点を明確にし、科学的な思考力をはぐむ指導を行う。

また、観察・実験において、結果を表やグラフに表したり、予想や仮説と関係付けながら考察を言語化したり、モデル図に表したりして
表現することを重視し、言語活動の充実を図る。さらに、問題解決的な学習方法について、中学校との接続を図る。

《各学年で育成する科学的な思考力》

第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
比較	関係付け	条件制御	推論

《理科における問題解決の過程》

